mexicana）としたが，主として裂芽の形や大きさで区別される。

X. orientalis（アカゾメキクバゴケ）はヤマキクバゴケに似ているが，裏面の色が暗褐色で，とくに地衣体中央部附近で黒色になる点で異なる。吉村（1974）は，本種をヨーロッパ産の *Parmelia tinctina* と同一とみなして，和名をアカゾメキクバゴケとしたが，ここではその和名を踏襲することにした。

X. togashii（ミノブキクバゴケ　新称）はヤマキクバゴケに似ているが，キクバゴケ属には珍らしいジロフォール酸を含む点で別種と考えられる。学名は採集者，富樫誠氏を記念したものである。

□松田義徳：**秋田県平鹿地方植物誌** 118pp. 1988. 秋田県立横手城南高等学校．平鹿地方は秋田県の最内陸部を占め平鹿町を中心とする町村からなり，40-80 m alt. の水田地帯，200-400 m の丘陵地，一部は 1000 m にせまり，これを僅かに超える山々がある。雄物川がその西縁を限り，東側の一部は岩手県境に接する。平凡と云えば平凡なこの地域を丁寧に調査した報告書で村松氏の秋田県植物誌（1932）以後の県内の植物の文献のほかに，大井（1983），中池（1982）などが参照され，誠実にまとめられている。シダ（64種），裸子（9），単子葉（259），双子葉（601）が学名・産地つきでまとめられている。自然ブナ林，ケヤキ林はわずかに残存し，カスミザクラ，コナラ，ヒメヤシャブシ（急峻地），タニウツギ（同前）ユキツバキ（林床）が目立つ。村落にはリンゴ，ブドウが多い由。（津山　尚）

□高知県立牧野植物園（編）：**植物目録** 82pp. 1988. この植物園は1958年に牧野富太郎博士を記念して設立され，野生植物の栽植も特徴の一つになっている。大いに充実してきた1988年現在同園に栽培されている植物（温室を除く）の目録である。産地も明記されている。なお同園の所在は 〒780 高知市[redacted]。（伊藤　洋）

□植物研究グループ飯泉ゼミ（編）：**檜原の植物** 246 pp. 1989. 織水社．￥1,950（税込）．東京都西多摩郡檜原（ひのはら）村は，五日市町から奥へ入った多摩川の支流秋川の流域を占める山と谷の村で，西端にある三頭（みとう）山 1528 m にはブナの原生林などもある。飯泉優氏が主宰する上記の会には植物好きが集まっていて，その方々が10年間に村内の各地を歩いた記録をまとめたものである。初めにウラジロヒカゲツツジなど94点の美しいカラー写真，巻末に檜原村産高等植物目録として1124種のリストがあり，分布資料として大いに役に立つ。記事は多彩で注目すべき植物，各地区の植物，山道の案内と季節ごとの植物，植物相とその保護，その他民俗なども載っていておもしろい。発行所の宛て先は 〒192 八王子市[redacted]。（伊藤　洋）